

京都大学若手人材海外派遣事業 スーパージョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成 27 年 3 月 9 日

1. 渡航者

氏名	大坪 徹也	採択年度	平成 25 年度
部局	医学研究科	電話	
職名	助教	メール	
研究課題名	根拠に基づいた地域医療政策のためのデータベース研究		
海外渡航期間	平成 25 年 12 月 26 日～ 平成 27 年 1 月 2 日		

2. 渡航に関する情報

渡航先 1	国名： United States of America 大学等研究機関名： Geisel School of Medicine at Dartmouth 研究室名等： Dartmouth Institute for Health Policy and Clinical Practice 受入研究者名： Professor David Goodman
渡航先 2	国名： Canada 大学等研究機関名： Institute for Clinical Evaluative Sciences 受入研究者名： Professor Jack Tu
渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	出張先：米国 目的：北部ニューイングランド心疾患研究グループ会議及びアカデミーヘルス学会に出席、情報収集 期間：平成 26 年 6 月 5 日 ～ 平成 26 年 6 月 12 日 出張先：英国 目的：過剰診断予防学会及び Wennberg 国際会議に出席、情報収集 期間：平成 26 年 9 月 13 日 ～ 平成 26 年 9 月 20 日

3. ジョン万プログラムによる成果

以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。ページ数については増加してもかまいません。

<p>国際共著論文の執筆 (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)</p>	<p>論文</p> <ol style="list-style-type: none"> Otsubo T, Goto E, Morishima T, Ikai H, Yokota C, Minematsu K, Imanaka Y. Regional Variations in In-hospital Mortality, Care Processes, and Spending in Acute Ischemic Stroke Patients in Japan. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2015;24(1):239-51. (渡航先 1 での成果物) Goodman D, Otsubo T. 他. 執筆中. (渡航先 1 での国際共同研究プロジェクト) Otsubo T, Rezai R, Chu A, Tu J. 改訂中. (渡航先 2 での成果物) <p>書籍</p> <ol style="list-style-type: none"> Otsubo T, Imanaka Y, Morishima T, Sasaki N, Park S, Lee J. Variations in Healthcare Spending and Quality among Institutions. IN The Handbook of Health Services Research. Verlag, Berlin, Heidelberg and NewYork: Springer. (2015 年刊行予定) <p>講演</p> <ol style="list-style-type: none"> Otsubo T. International comparison of ischemic stroke care between Japan and United States. Wennberg International Coraborative. 2015 予定. (渡航先 1 での成果物)
<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ/実施 (国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>国際共同研究の実施成果の一つとしては、渡航先1にて、小児医療における地域差について米国、英国、オランダ、イタリア、スペイン、日本による国際共同研究プロジェクトに参画し、渡航先1の研究者を筆頭著者として論文発表を予定している。(上記論文 2) 直接的な外部資金獲得の予定は現時点ではない。</p>
<p>国際研究ネットワークの新規構築/深化 (参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築/深化した研究ネットワークの内容等)</p>	<p>米国においては、地域における医療のアウトカムやプロセスに関する研究成果を持ち寄り、研究者と臨床家がいかに地域の医療を改善していくかについて議論する場である、北部ニューイングランド心疾患研究グループ会議に参加する機会を得た。また、米国における受入研究者らが主催する国際会議である、Wennberg 国際会議に参加することで、人的交流を深めることができた。また、書籍の共著プロジェクトを通じて、経済学の教授と議論する機会を得て、執筆内容にその議論の成果を示すことができた。</p>
<p>在外研究経験による研鑽 (渡航先機関で得た研究の展開方法、研究室の運営方法、教育方針・人材育成方法等)</p>	<p>研究の展開方法: 研究計画の立案からデータ分析の依頼を経て研究成果を生み出すまでの過程とその成果を実社会に反映する場面まで学ぶことができた。また、レポートの発刊やマスコミュニケーションを通じた情報発信など、具体的な事例を交えて学ぶ機会を得た。</p> <p>研究室の運営方法: 渡航の目的のひとつとして、日々データが追加される、大規模なデータベースをいかに効率的に運用し、研究成果として出力していくかというプロセスについて学ぶ機会を期待していた。2カ国にわたり異なる研究機関を視察できたことで、比較しながら運営のあり方について学ぶことができた。各職種を担当範囲の違いと連携の仕方、情報共有のあり方など、文献では得ることのできない貴重な知見をえることができた。</p>

	<p>教育： 米国においていくつかの講義に受講生として参加し、少人数でクラス編成する際の教育のあり方やその内容について学ぶ機会を得た。また、米国で2度、カナダで1度ずつ講義を担当する機会を得て、多くの質疑応答と共に国際的な視点からの刺激を得た。</p>
<p>フィールド研究の進展 (渡航先国で実施した 実地調査や文献調査 等の内容)</p>	<p>米国においては、米国全土における65歳以上の患者に関する医事管理データベースへのアクセスが許され、診療報酬体系や保険制度に加えて、情報技術について学びながら分析を行なった。脳梗塞治療に関するプロセスやアウトカムの日米比較を目標とし、日本を対象とした分析結果は論文1で投稿し、既に受理されている。米国の分析結果については、日本の分析結果を交えて報告する予定である。</p> <p>カナダにおいては、医療政策に寄与しうるデータベース研究であり、かつ時系列解析の要素を含めた研究を行ないたい旨、受入研究者と協議し、研究計画を立案した。診療報酬体系の変更に伴う医療資源利用の変化をテーマとして、研究班でのプレゼンテーションを交えて議論を重ねながら研究を進めることができた。</p>